

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第8号(4月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を農業者向けとして発信しております。病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に注意》

- 【バラ科果樹】 **クビアカツヤカミキリ**
- 【たまねぎ】 **べと病、ネギアザミウマ(えそ条斑病)**

《4月の予報概要》

A 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
もも	発生に注意:せん孔細菌病				
バラ科果樹	発生に注意:クビアカツヤカミキリ(発生地域が拡大)				

B 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
		灰色かび病			
		うどんこ病			
		アザミウマ類			
たまねぎ				べと病	
			白色疫病		
				ネギアザミウマ	
トマト・ミニトマト	発生に注意:トマトキバガ				
野菜類			コナジラミ類		

《(参考)4月の気象予報》

気温	低い (10%)	平年並(20%)	高い(70%)
降水量	少ない(20%)	平年並(30%)	多い(50%)
日照時間	少ない(50%)	平年並(30%)	多い(20%)

(大阪管区气象台3月21日(木)発表)

A 果樹類

1 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風当たりの強い園地では、防風ネットを設置する。 ・感染拡大を防ぐため、開花後に春型枝病斑(前年枝の表面が黒褐色で、陥没したり、裂けたり、かさぶた状になる)を見つけた場合は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・春型枝病斑の発生が多い園では、袋かけを満開1か月後頃までに行うと果実の感染予防に有効である。

2 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	<u>発生に注意</u>	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生地域が年々拡大している。 ・幼虫は樹体内を食害し、4～10月頃にフラス(幼虫の糞・木屑・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる)を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・4月の気温は平年より高いと予想されているため、フラスの発生が平年より早くなる可能性がある。フラスを見逃さないようにほ場をよく見回り、フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・被害樹では、羽化して樹から脱出した成虫を閉じ込め他の樹への分散を防ぐため、また、未被害樹では成虫による産卵を阻止するため、成虫が発生する前の5月下旬までに、4mm 目合いネットを2重、もしくは0.4mm 目合いネットを1重に、樹体とネットに隙間をあけて巻き付ける。

B 野菜類

1 なす(施設栽培)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の施設の巡回調査では、発生は見られなかった(平年よりやや少ない)。 ・4月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、過湿にならないように管理する ・薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。

灰色かび病	やや少ない	[予報の根拠] ・3月の施設の巡回調査では、発生は見られなかった(平年よりやや少ない)。 ・4月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・開花後の花卉をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに、被害葉・被害果を早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 ・薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・3月の施設の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の気温は高く、日照時間は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・3月の施設の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・4月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培等を行う。

2 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	<u>やや多い</u>	[予報の根拠] ・一部地域で多発しているという情報提供があった。 ・3月の巡回調査で発生が見られた。 ・4月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。 ・3月8日に防除情報を発出した。

べと病	<u>やや多い</u>	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・べと病は好適条件(気温 15℃前後で多雨)が揃うと急速にまん延する恐れがある。 ・発生前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、健全株への感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。
白色疫病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・4月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、健全株への感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	<u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の巡回調査では、ネギアザミウマの発生は平年並であった。 ・3月の巡回調査で、えそ条斑病の発生も見られた。 ・4月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <p>【ネギアザミウマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)を媒介する。たまねぎやねぎなどネギアザミウマの寄主作物を作付けしている地域では、ネギアザミウマが互いの作物間を移動することが確認されており、本虫の移動に伴ってIYSVの感染も広がる。 ・発生初期の防除に努める。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>【えそ条斑病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えそ条斑病に対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるネギアザミウマの早期発見・早期防除に努める。 ・発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し土中深く埋めるか、廃ビニールで覆って密閉する等適切に処分する。

3 トマト・ミニトマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
トマトキバガ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が茎葉の内部に潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変する。 ・果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空くとともに腐敗するため、品質が低下する。 ・発生が疑われる場合は、速やかに病害虫防除グループや最寄りの農の普及課、JA に確認する。 ・施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、侵入を防止する。 ・トマト、ミニトマトでは登録農薬を散布する。

4 野菜類

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト等施設栽培では、開口部に 0.4mm 目合いのネットを張り、成虫の侵入を防止する。 ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。また、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

LINE 始めました! 週1回程度、病害虫や大阪エコ農産物制度に関する様々な情報をお届けします。
 こちらより友達登録:<https://works.do/R/ti/p/byogaichu@bojo>

大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

- ① <https://www.pref.osaka.lg.jp/byogaichu/byogaichu/index.html>
- ② <https://www.jppn.ne.jp/osaka/>

病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループメールサービス担当
<https://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>

おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当
<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>

Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。